

## 2 『循環型社会の構築』

### (1) ごみ減量

#### 1) 達成目標の設定

「家庭系ごみの39%減量」

(平成28年度、家庭系ごみの減量率)

#### 2) 具体的目標数値の設定

平成16年：59,383 t → 平成28年：36,224 t  
(家庭系ごみの排出量)

#### イ 太田市のごみの現状

ごみの総排出量は、増加傾向にあり、平成15年度(2003年)の日本のごみ処理量が5,161万tで1人1日当たりごみ排出量の平均は1,106g(循環型社会白書より)、平成16年度(2004年)の太田市は、1,130gと全国平均より少し多い排出量となっています。

また、ごみ焼却のための処分費用は、1t当たり約3万円であり、年間で約30億円、日平均で600万円となっています。(太田市清掃センターより)

表2-1-1 太田市ごみ排出量、1人1日当りのごみ排出量

項目	年(人口)	合併			
		平成14年 (212,353)	平成15年 (212,908)	平成16年 (217,038)	平成17年 (218,033)
可燃ごみ総量 (t)		73,887	75,145	72,115	71,410
可燃太田 (t)		60,352	60,843	57,891	58,339
可燃尾島 (t)		2,733	2,740	2,712	2,581
可燃新田 (t)		6,045	6,446	6,449	5,244
可燃藪塚 (t)		4,757	5,116	5,063	5,246
不燃・粗大ごみ (t)		5,023	5,357	6,295	4,938
資源ごみ (t)		1,328	1,273	1,911	4,642
緑のリサイクルセンター (t)		—	—	—	725
集団回収 (t)		4,392	4,421	4,481	5,539
コンポスター等 (t)		4,369	4,597	4,710	724
リサイクル率		11.34%	11.33%	12.40%	13.22%
ごみ総排出量 (t)		88,999	90,793	89,512	87,978
1人1日当たり (g)		1,148	1,168	1,130	1,106

出典：《ごみ数量》太田市清掃センター・桐生市清掃センター  
《人口》住民基本台帳

※参照：参考資料④「ごみ処理展開図」

※ごみ総排出量の定義(環境省定義を参考)

ごみとは、焼却場で処分されるものと、生ごみ処理機により処分されるものを示し、集団回収などにより再資源化される古紙などはごみとして計上していない。しかしながら、本計画では、集団回収などにおいて再資源化される古紙などについても、家庭などから排出されるごみとして取扱い、ごみの排出量は、(焼却場処分(搬入ごみ)+生ごみ処理機などでの処分+集団回収)の合計としている。

ロ 目標値の設定

新生太田市総合計画では、ごみ処理経費の一部負担制を導入し、『家庭系ごみの3割減量』を努力目標に掲げ、ごみの資源化と減量に努めることとしています。

これらの目標をより効果的に推進するために、市民全体へ「ごみの減量とリサイクル」の必要性を訴え、新たな施策の導入や市民からの協力体制を構築し、市民の認識を深め、省資源化と環境負荷の低減を図りながら、循環型社会システムの構築を目指していくこととしています。

【参考：新生太田市総合計画より】

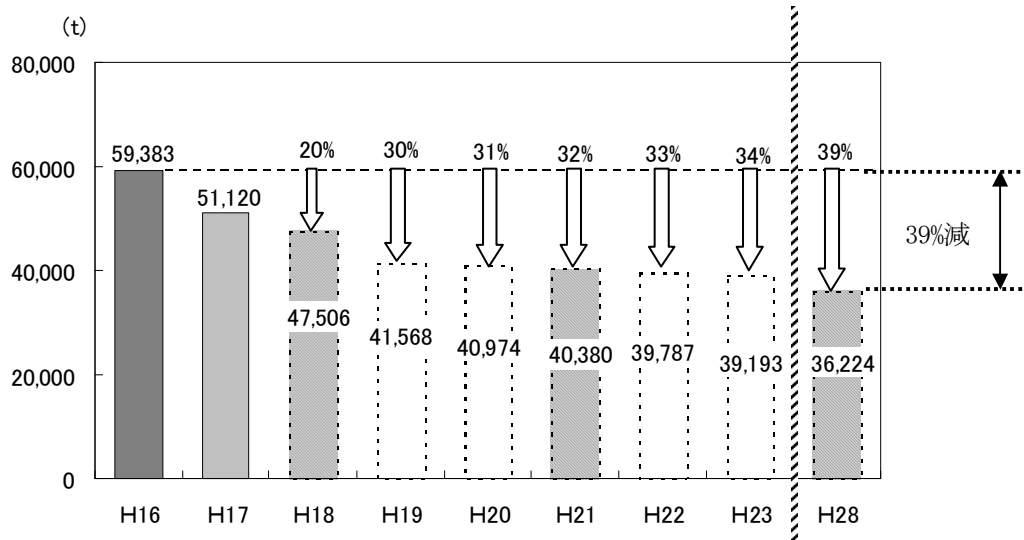


図 2-2-1 家庭系ごみの排出量の推移と目標推計

【具体的な目標値】

平成 16 年度の家庭系ごみの総搬出量を基準として、3 年間で 3 割減量し、その後は毎年 1 % の減量を目指します。

- ・ 基準年(平成 16 年度排出量) : 59,383 t
- ・ 平成 23 年度(基準年から 5 年目) : 39,193 t  
 $59,383 - (59,383 \text{ t} \times 0.34) \doteq 39,193 \text{ t}$
- ・ 平成 28 年度(基準年から 10 年目) : 36,224 t  
 $59,383 - (59,383 \text{ t} \times 0.39) \doteq 36,224 \text{ t}$